

公園内で見られる植物

写真は11月17日(土)
自然観察会で見られた
植物等です



ラクウショウとメタセコイア (スギ科)

晩秋を思わせるラクウショウの紅葉です。こんもりとして丸みをおびた感じがするラクウショウに対して、隣のメタセコイアは同じ円錐形の樹形ですが、スットした感じがします。メタセコイアは葉の付き方は対生で、球果が小さいので区別する事ができます。メタセコイアの実はリースや飾り炭の材料として使っています。



ラクウショウの膝根 (スギ科)

地中から伸び出してきた根（膝根）は、呼吸根と呼ばれ人間や動物色々なものに見えてくるから不思議です。あまり見かけない変わった性質ですね。別名ヌマスギと言われるのは、他の樹木が根腐れするような湿地帯や沼のほとりなどでも良く育つからだそうです。



オオバヤシャブシ (カバノキ科)

良く似ているヤシャブシとの違いは、葉や果実が大きい事と、雄花序の冬芽は枝先に付かず、枝先についているのは葉である事。雌花序は雄花序より上に付く事です。（雄花→雌花→葉）

写真の冬芽は雄花で触るとネバネバしています。冬の寒さから粘液で実を守っていると思われます。



オケラ (キク科)

花は白〜ごく薄い紅色で、アザミに似た筒状花を包むように魚の骨が絡み合ったような苞葉があります。雄しべと雌しべの両方を持つ両性株と雌しべだけが機能する雌株があります。

昔はウケラと呼ばれ根茎は生薬（朮：じゅつ）として利用されたり、若芽を山菜として食用にもしていたそうです。また、刻んで焚くと疫病よけになると信じられていました。



センブリ (リンドウ科)

昔から胃腸薬として利用されています。1000 回振り出してもまだ苦いところから付いた名前です。2年目の開花期の全草を薬として用います。花は日が当たると花びらが開き、暗くなると閉じます。



ツタウルシ (ウルシ科)

紅葉したツタウルシです。特徴である3出複葉で、小葉は卵形又は楕円形で、先は短く尖っていますね。葉にラッコールという漆成分があり触れるとひどくかぶれます。



ヤブムラサキ (クマツヅラ科)

紫色の実が残っていました。さてこれはムラサキシキブか？ヤブムラサキか？
まず、葉の上に実ができていないか、下にできているか？萼がはっきりとわかるか？最後に枯れかけていますが、葉っぱを触ってみて触り心地がよいか？葉の幅はどうか？ヤブムラサキだったそうです。



ヒラタケ (ヒラタケ科)

傘は半円形で、中央がくぼんでじょうご型になるものもあります。色は黒色→灰色→褐色→白色と変化します。味に癖がないので、よく煮物にして食べますが汁や鍋物など色々な料理に利用できます。

よく似たキノコで毒キノコのツキヨタケがありますので注意が必要です。見分け方は、ツキヨタケは柄を裂くと黒色のシミが確認されることです。



ツルアリドオシ (アカネ科)

赤い実が良く目立ちます。アリドオシに似て蔓性なのでこの名が付いていますが、蟻を貫くような細い刺はありません。実の真ん中に豚の花のような変わった形の花の跡が付いています。ツルアリドオシを1両と言います。(参考：カラタチバナを100両、ヤブコウジを10両)